

浜の活力再生プラン
令和 6 ～10年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	常滑地区地域水産業再生委員会
代表者名	鈴木 敏且（鬼崎漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	鬼崎漁業協同組合、常滑市（経済部経済振興課）、愛知県知多農林水産事務所（水産課）
オブザーバー	愛知県（農業水産局水産課）、愛知県漁業協同組合連合会、東日本信用漁業協同組合連合会愛知支店

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	愛知県常滑市鬼崎地区 ノリ養殖業（40経営体） （令和 6 年 4 月 1 日現在）
-------------------	--

2 地域の現状

（1）関連する水産業を取り巻く現状等

伊勢湾の北東部に位置する当地区は、名古屋都心に近く、南には中部国際空港が整備されている。その地先は、木曾三川から流入する豊富な栄養塩に支えられ、優良な海苔養殖漁場となっている。このことから、鬼崎漁業協同組合のノリ養殖業は、県内一の生産量であり、県内シェアの31%を占める。地区の主な漁業は、生産金額の93%を占めるノリ養殖業であるが、それ以外にも、伊勢湾奥部に生息する豊富な魚介類を対象とする底びき網漁業（シャコ、エビ、アナゴ、カニ、タコ等）、潜水漁業（タイラギ等）、採貝漁業（アサリ、バカガイ、トリガイ等）などが営まれている。

鬼崎漁協のノリ養殖業の概要 （令和 4 年度共販実績）	年間生産枚数：64,306千枚 年間生産額：1,205,733千円 経営体数：40経営体 柵 数：11,158柵 漁場面積：241,013m ²
--------------------------------	---

※ノリ漁期である令和 4 年11月から令和 5 年 4 月までとした。

鬼崎漁協は、ノリ加工設備への投資による経営の圧迫、消費形態の変化による価格低迷、地域の宅地化による加工場の騒音問題、高い生産性を支える労働力の確保といった課題を抱えていた。その解決を図るため、平成20年度から25年度にかけて水産基盤整備事業により常滑市が加工場用地を鬼崎漁港に造成し、平成25年度から28年度にかけて産地水産業強化支援事業により鬼崎漁協が合計9棟のノリ共同加工施設からなるノリ加工団地の整備を行い、地域内のノリ加工場を集約するとともに委託加工や協業による共同加工を図った。

また、水温・塩分の漁場環境の動向を的確に把握し適切なノリ養殖管理を実施するため、平成29年度に実証実験を実施した上でICTブイ 3 基を導入し、平成30年度から運用

を開始した。

近年では、魚類や鳥類によるノリ食害の被害が拡大するとともに、漁場水温の上昇に伴う漁期縮小など、地区の基幹産業であるノリ養殖業に大きな影響を与えている。

鬼崎地区の新規就業者は比較的確保できている状況ではあるが、漁業者の高齢化も進み、正組合員数は過去5年間で12名（約10%）減少している。

鬼崎漁協は平成20年2月20日に大野漁協と合併し、経営の合理化に努めている。

ノリ養殖漁場周辺においては、現在、名古屋港航路浚渫土砂の中部国際空港沖への埋立処分が実施されており、埋立に伴う潮流の変化など漁場環境への影響が危惧される。また、このような海況変化に伴い、あかぐされ病や感染性スミノリ症等ノリ葉体の病気の蔓延等の懸念がある。

また、近年の温暖化に加え、中部電力西名古屋発電所第7系列の機能拡張に伴う温排水の影響により、漁場周辺の海水温が上昇し、ノリの養殖期間の縮小、温かい水を好む魚類によるノリの食害被害の拡大等が懸念されている。

（2）その他の関連する現状等

常滑地区は、中部国際空港開港とともに、高速道路や私鉄の整備が進み、名古屋市など県内外からの交通アクセスの利便性が向上している。また、中部国際空港と愛知県国際展示場があり、これらの利用者や宿泊客をターゲットにした飲食店の活性化など魅力向上に取り組んでいる。

古くから窯業・醸造業が盛んな地区として知られ、窯業は現在も当地区の主産業になっている。また、窯業・醸造業は観光と関連させて活性化が図られている。

3 活性化の取組方針

（1）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) 余剰労働力の有効活用

- ① 前期では、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網の養殖管理等に取り組み、生産量の増加、品質向上に努めたが、食害が長期化していることや食害対策に空白が生じた時期や場所で被害が発生していることから、今期も引き続き食害対策の改善に取り組み、効果的な養殖管理を実施する。
- ② 経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するために、既存の養殖柵の幅の拡大及び増柵を検討し、生産量の増加や品質の向上を図る。

(2) ICTブイによる品質の向上

- ① 前期において、運用を開始したICTブイを活用して、水温降下時期の予測による網の張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施し、生産量の増加に努めた。今期も引き続きICTブイを活用して水質環境の変化に迅速に対応することで、最近のノリ養殖に厳しい環境条件下における品質の向上・均質化や生産量の増加を図る。

(3) 各種調査による漁場環境把握

- ① 前期に引き続き、鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会により、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施し、漁場環境や葉体の健全度を把握し、これまで以上にきめ細やかなノリ網管理を行い生産量の増加、品質の向上を図る。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 共同加工施設の活用による効率化

- ① 前期に引き続き平成24～28年度に整備した海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工施設を効率的に稼働させるため、ノリ網の張り込みや摘採等の海上作業を協業化し、効率的な生産体制の確立を図る。
- ② ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入等の整備を順次進め、作業の効率化・省力化を図る。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 漁業人材育成確保

- ① 全国的にノリの生産量が減少していることや、外食産業等からの需要が新型コロナウイルス感染症の影響から回復していることから、ノリの生産量及び品質の維持・向上に資する人材が求められているため、前期に引き続き、ノリの加工技術や品質管理に関する研修等を実施し、養殖業者や加工場のオペレーターの人材育成を図る。

(2) その他の取組

- ① ノリの直売事業の拡充や地域の小学校等での食育活動等に取り組むことで、地域における「鬼崎のり」の認知度向上、消費拡大を図る。
- ② 前期ではコロナ禍のためイベントが中止となることが多かったが、ふるさと納税返礼品に出品するなどPRに努めた。今期も引き続き名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等でのPR、ふるさと納税返礼品としての提供など、周辺地域や県外での認知度向上を進めていく。

(3) 資源管理に係る取組

持続的養殖生産確保法に基づく知多地区漁場改善計画の適正な推進
愛知県知多地区8漁協で構成される知多のり協議会で策定された知多のり養殖基準の遵守によるノリ養殖漁場環境の保全

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）2.3%

漁業収入向上のための取組	(1) 余剰資源の有効活用 ① ノリ養殖業者は、生産量を維持するため、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網の養殖管理等の方法を検討し、実行する。 魚に対しては、ノリ網から垂下するよう防除網を設置して養殖施設内への侵入を防ぐことで食害を防除する。カモに対しては、支柱柵の上部を網で囲う、浮き流し網を沈下する等の方法により食害を防除する。また、効果的な防除方法を検討するため、食害魚の駆除試験を実施する。 ② 漁協は、経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するに、既存の養殖柵の幅の拡大や増柵について検討する。 (2) ICTブイによる品質の向上 ① ノリ養殖業者は、水質環境の変化に迅速に対応するため、これまでの観測データとICTブイから得られた最近のデータを基に、網の張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施することで品質の向上・均質化を図る。 (3) 各種調査による漁場環境把握 ① 鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会は、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施する。ノリ養殖業者は、その結果に基づき漁場環境や葉体の健全度を把握し、酸処理、干出操作、ノリ網撤去等迅速かつ適切な網管理を行うことで生産量及び品質の維持に取り組む。
漁業コスト削減のための取組	(1) 共同加工施設の活用による効率化 ① ノリ養殖業者は、海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工（漁協への委託加工、協業による加工）に取り組むとともに、漁協は、棟ごとにばらつきのある稼働時間・日数を是正するため、各漁業者の生産能力を考慮した棟の割り振りを行い、稼働状況の平準化及び効率化に努め、より一層の生産コストの削減を図る。また、海上作業の協業化について検討する。 ② 漁協及びノリ養殖業者は、ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、作業の効率化・省コスト化を図るため、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入等に向けた検討を行う。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ① 漁協は、海苔加工機械メーカーによる加工技術の研修や、海苔問屋・商社などを講師とする海苔製品品質向上のための講習会等を開催し、漁業者の資質向上を図る。 (2) その他の取組 ① 漁協及びノリ養殖業者は、愛知県が実施する小学校での出前授業や漁業士協議会が実施する幼稚園児の保護者を対象とする魚食普及交流会等の食育活動に漁協職員や漁業士等を派遣して、ノリ養殖やノリの栄養などに関する講義、海苔製品の試食等を通じてノ

	リの普及を図る。 ② 漁協は、「鬼崎のり」について、常滑市農業まつりを始めとしたイベントでのPR、漁協周辺道路への広告看板の設置、常滑市内小中学校への給食への提供等を実施し、常滑市内での認知度向上をさらに深化させる。また、漁協及びノリ養殖業者は、周辺市町や名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等にも積極的に参加し、「鬼崎のり」のPR、販売を行い、認知度向上、消費拡大を図る。また、常滑市のふるさと納税返礼品とすることにより、県外での認知度向上を図る。
活用する支援措置等	なし

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）4.6%

漁業収入向上のための取組	(1) 余剰資源の有効活用 ① ノリ養殖業者は、前年度の取組を踏まえ、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網の養殖管理等のより良い方法を検討し、実行する。また、効果的な防除方法を検討するため、食害魚の駆除試験のほか、防除試験を実施する。 ② 漁協は、前年度の検討結果に基づき、経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するために、既存の養殖柵の幅の拡大や増柵について試行する。 (2) ICTブイによる品質の向上 ① ノリ養殖業者は、水質環境の変化に迅速に対応するため、これまでの観測データとICTブイから得られた最近のデータを基に、網の張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施することで品質の向上・均質化を図る。 (3) 各種調査による漁場環境把握 ① 鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会は、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施する。ノリ養殖業者は、その結果に基づき漁場環境や葉体の健全度を把握し、酸処理、干出操作、ノリ網撤去等迅速かつ適切な網管理を行うことで生産量及び品質の維持に取り組む。
漁業コスト削減のための取組	(1) 共同加工施設の活用による効率化 ① ノリ養殖業者は、海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工（漁協への委託加工、協業による加工）に引き続き取り組み、漁協は、棟ごとにばらつきのある稼働時間・日数を是正するため、各漁業者の生産能力を考慮した棟の割り振りを行い、稼働状況の平準化に努め、より一層の生産コストの削減を図る。また、海上作業の協業化については、検討結果に基づき協議する。 ② 漁協及びノリ養殖業者は、ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入に向けた検討結果を基に改修・整備計画を策定する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ① 漁協は、海苔加工機械メーカーによる加工技術の研修や、海苔問屋・商社などを講師とする海苔製品品質向上のための講習会等を

	開催し、漁業者の資質向上を図る。 (2) その他の取組 ① 漁協及びノリ養殖業者は、愛知県が実施する小学校での出前授業や漁業士協議会が実施する幼稚園児の保護者を対象とする魚食普及交流会等の食育活動に漁協職員や漁業士等を派遣して、ノリ養殖やノリの栄養などに関する講義、海苔製品の試食等を通じてノリの普及を図る。 ② 漁協は、「鬼崎のり」について、常滑市農業まつりを始めとしたイベントでのPR、漁協周辺道路への広告看板の設置、常滑市内小中学校への給食への提供等を実施し、常滑市内での認知度向上をさらに深化させる。また、漁協及びノリ養殖業者は、周辺市町や名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等にも積極的に参加し、「鬼崎のり」のPR、販売を行い、認知度向上、消費拡大を図る。また、常滑市のふるさと納税返礼品とすることにより、県外での認知度向上を図る。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②） 愛知県漁業生産力強化総合対策事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②）

3 年目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比） 7.0%

漁業収入向上のための取組	(1) 余剰資源の有効活用 ① ノリ養殖業者は、前年度の取組を踏まえ、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網や防除試験の養殖管理等の方法を改善して実行する。また、食害魚の駆除試験の結果を検証し、効果的な防除手法を検討する。 ② 漁協は、経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するために、漁場において養殖柵の幅の拡大や増柵の試行結果を検討する。 (2) ICTブイによる品質の向上 ① ノリ養殖業者は、水質環境の変化に迅速に対応するため、これまでの観測データとICTブイから得られた最近のデータを基に、網の張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施することで品質の向上・均質化を図る。 (3) 各種調査による漁場環境把握 ① 鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会は、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施する。ノリ養殖業者は、その結果に基づき漁場環境や葉体の健全度を把握し、酸処理、干出操作、ノリ網撤去等迅速かつ適切な網管理を行うことで生産量及び品質の維持に取り組む。
漁業コスト削減のための取組	(1) 共同加工施設の活用による効率化 ① ノリ養殖業者は、海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工（漁協への委託加工、協業による加工）に引き続き取り組むとともに、生産コストの削減を図る。漁協は、棟ごとにばらつきのある稼働時間・日数を是正するため、各漁業者の生産能力を考慮した棟の割り振りを行い、稼働状況の平準化に努め、より一層の生産コストの削減を図る。また、海上作業の協業化については、協議結果

	を踏まえて試行する。 ② 漁協及びノリ養殖業者は、ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入等の整備を改修・整備計画に基づき、順次実施し、作業の効率化・省力化を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ① 漁協は、海苔加工機械メーカーによる加工技術の研修や、海苔問屋・商社などを講師とする海苔製品品質向上のための講習会等を開催し、漁業者の資質向上を図る。 (2) その他の取組 ① 漁協及びノリ養殖業者は、愛知県が実施する小学校での出前授業や漁業士協議会が実施する幼稚園児の保護者を対象とする魚食普及交流会等の食育活動に漁協職員や漁業士等を派遣して、ノリ養殖やノリの栄養などに関する講義、海苔製品の試食等を通じてノリの普及を図る。 ② 漁協は、「鬼崎のり」について、常滑市農業まつりを始めとしたイベントでのPR、漁協周辺道路への広告看板の設置、常滑市内小中学校への給食への提供等を実施し、常滑市内での認知度向上をさらに深化させる。また、漁協及びノリ養殖業者は、周辺市町や名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等にも積極的に参加し、「鬼崎のり」のPR、販売を行い、認知度向上、消費拡大を図る。また、常滑市のふるさと納税返礼品とすることにより、県外での認知度向上を図る。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②） 愛知県漁業生産力強化総合対策事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）9.3%

漁業収入向上のための取組	(1) 余剰資源の有効活用 ① ノリ養殖業者は、前年度の取組を踏まえ、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網の養殖管理等の方法を改善し、実行する。また、前年度に検討した防除手法の実証試験を行う。 ② 漁協は、経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するために、養殖柵の幅の拡大や増柵の実証結果に基づき改善して導入を図る。 (2) ICTブイによる品質の向上 ① ノリ養殖業者は、水質環境の変化に迅速に対応するため、これまでの観測データとICTブイから得られた最近のデータを基に、網の張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施することで品質の向上・均質化を図る。 (3) 各種調査による漁場環境把握 ① 鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会は、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施する。ノリ養殖業者は、その結果に基づき漁場環境や葉体の健全度を把握し、酸処理、干出操作、ノリ網撤去等迅速かつ適切な網管理を行うことで生産量及び品質の維持に取り組む。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	(1) 共同加工施設の活用による効率化 ① ノリ養殖業者は、海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工（漁協への委託加工、協業による加工）に引き続き取り組むとともに、漁協は、棟ごとにばらつきのある稼働時間・日数を是正するため、各漁業者の生産能力を考慮した棟の割り振りを行い、稼働状況の平準化に努め、より一層の生産コストの削減を図る。また、海上作業の協業化については、試行結果を評価し実施可能な協業体を決定する。 ② 漁協及びノリ養殖業者は、ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入等の整備を改修・整備計画に基づき、順次実施し、作業の効率化・省力化を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ① 海苔加工機械メーカーによる加工技術の研修や、海苔問屋・商社などを講師とする海苔製品品質向上のための講習会等を開催し、漁業者の資質向上を図る。 (2) その他の取組 ① 漁協及びノリ養殖業者は、愛知県が実施する小学校での出前授業や漁業士協議会が実施する幼稚園児の保護者を対象とする魚食普及交流会等の食育活動に漁協職員や漁業士等を派遣して、ノリ養殖やノリの栄養などに関する講義、海苔製品の試食等を通じてノリの普及を図る。 ② 漁協は、「鬼崎のり」について、常滑市農業まつりを始めとしたイベントでのPR、漁協周辺道路への広告看板の設置、常滑市内小中学校への給食への提供等を実施し常滑市内での認知度向上をさらに深化させる。また、漁協及びノリ養殖業者は、周辺市町や名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等にも積極的に参加し、「鬼崎のり」のPR、販売を行い、認知度向上、消費拡大を図る。また、常滑市のふるさと納税返礼品とすることにより、県外での認知度向上を図る。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②） 愛知県漁業生産力強化総合対策事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②）

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比） 11.6%

漁業収入向上のための取組	(1) 余剰資源の有効活用 ① ノリ養殖業者は、前年度の取組を踏まえ、共同加工化によって生み出された余剰労働力を用いて、魚、カモ等によるノリの食害対策やノリ網の養殖管理等の方法を改善し、実行する。また、前年度までの実証試験等の結果をもとに効果的な防除手法を確立する。 ② 漁協は、ノリ養殖業者とともに、経営体数の減少に伴い使用しなくなった漁場を有効活用するため、養殖柵の幅の拡大や増柵について改善して実施する。 (2) ICTブイによる品質の向上 ① ノリ養殖業者は、水質環境の変化に迅速に対応するため、これまでの観測データとICTブイから得られた最近のデータを基に、網の
---------------------	---

	張り込み時期の決定や水温・塩分の変動に応じた適切な網管理を実施することで品質の向上・均質化を図る。 (3) 各種調査による漁場環境把握 ① 鬼崎のり研究部を始め、知多地区各漁協ののり研究部が構成員となっている知多のり研究会は、栄養塩類調査、葉体病障害調査等を実施し、その結果に基づき漁場環境や葉体の健全度を把握し、酸処理、干出操作、ノリ網撤去等迅速かつ適切な網管理を行うことで生産量及び品質の維持に取り組む。
漁業コスト削減のための取組	(1) 共同加工施設の活用による効率化 ① ノリ養殖業者は、海苔共同加工施設9棟を活用し、共同加工（漁協への委託加工、協業による加工）に引き続き取り組むとともに、漁協は、棟ごとにばらつきのある稼働時間・日数を是正するため、各漁業者の生産能力を考慮した棟の割り振りを行い、稼働状況の平準化に努め、より一層の生産コストの削減を図る。また、海上作業の協業化について、実施可能な協業体から取り組む。 ② 漁協及びノリ養殖業者は、ノリ養殖、ノリ加工に関する共同利用施設において、老朽化した施設の更新や修繕、性能が十分でない施設の改修や高性能機器の導入等の整備を改修・整備計画に基づき、順次実施し、作業の効率化・省力化を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ① 漁協は、海苔加工機械メーカーによる加工技術の研修や、海苔問屋・商社などを講師とする海苔製品品質向上のための講習会等を開催し、漁業者の資質向上を図る。 (2) その他の取組 ① 漁協及びノリ養殖業者は、愛知県が実施する小学校での出前授業や漁業士協議会が実施する幼稚園児の保護者を対象とする魚食普及交流会等の食育活動に漁協職員や漁業士等を派遣して、ノリ養殖やノリの栄養などに関する講義、海苔製品の試食等を通じてノリの普及を図る。 ② 漁協は、「鬼崎のり」について、常滑市農業まつりを始めとしたイベントでのPR、漁協周辺道路への広告看板の設置、常滑市内小中学校への給食への提供等を実施し、常滑市内での認知度向上をさらに深化させる。また、漁協及びノリ養殖業者は、周辺市町や名古屋市などの都市部で開催される食のイベント等にも積極的に参加し、「鬼崎のり」のPR、販売を行い、認知度向上、消費拡大を図る。また、常滑市のふるさと納税返礼品とすることにより、県外での認知度向上を図る。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②） 愛知県漁業生産力強化総合対策事業（漁業コスト削減のための取組（1）－②）

(5) 関係機関との連携

愛知県漁業士協議会、知多のり研究会とノリ養殖業の収入向上及びコスト削減のために、漁場環境の把握やノリ養殖網の管理、常滑地区内外の消費者へのノリのPRを行う。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を評価し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、常滑地区地域再生委員会会員会議を毎年1回開催し、委員会事務局が作成した浜プラン達成状況及び評価案を審議・決定し、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ノリの生産枚数	基準年	平成30年度～令和4年度5中3平均： 81,615千枚 (千枚)
	目標年	令和10年度： 82,227千枚 (千枚)
「鬼崎のり」の販売個数 (味付海苔(箱)+焼海苔(個))	基準年	平成30年度～令和4年度5中3平均： 15,459個 (個)
	目標年	令和10年度： 15,575個 (個)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

他地区の生産状況や燃油の国際価格の状況等に左右されず、取り組みの成果を端的に示すものとして、鬼崎漁協のノリ生産枚数をサブ指標として設定した。
生産枚数は、水温や栄養塩の状況等、漁場環境の影響を大きく受ける。できるだけ実態を勘案した基準値とするため、過去5年(H30～R4)の最大値、最小値を除く平均値(5中3年平均)を採用した。
目標の生産枚数は、近年の温暖化傾向や貧栄養の影響による厳しい漁場環境の中、余

剰労働力の有効活用による養殖管理や増柵等による漁場有効利用等の取組により生産量増大が見込めるため、毎年0.15%の増加は妥当であると判断した。

また、漁村活性化の取組の成果を示すものとして、「鬼崎のり」の販売個数をサブ指標として設定した。

販売個数はノリの生産枚数や市況等の影響を大きく受ける。できるだけ実態を勘案した基準とするため、過去5年（H30～R4）の最大値、最小値を除く平均値（5中3年平均）を採用した。

目標の販売個数は、「鬼崎のり」PRの取組の効果とノリの生産枚数の増加を見込み、ノリの生産枚数の増加率と同様の毎年0.15%の増加とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	老朽化したノリ生産施設、機器類の更新によるノリ生産の効率化・省力化を目的として、ノリ共同加工施設・設備の整備・改修への支援を行う。
愛知県漁業生産力強化総合対策事業	老朽化したノリ生産施設、機器類の更新によるノリ生産の効率化・省力化を目的として、ノリ共同加工施設・設備の整備・改修への支援を行う。